ジヒドロピリジン(DHP)系カルシウム拮抗薬(成人高血圧症)

2025年9月17日作成

推奨	推奨				オプション					
一般名	アムロジピンベシル酸塩		ニフェジピン(徐放CR)		アゼルニジピン		シルニジピン		ベニジピン塩酸塩	
代表的な製品名	GE	アムロジン、 ノルバスク(先発品)	GE	アダラートCR (先発品)	GE	カルブロック (先発品)	GE	アテレック (先発品)	GE	コニール (先発品)
1日薬価	10.4～13.7円		6.9～36.4円		10.4～26.6円		10.4～34.3円		10.4～18.9	
効能・効果	①高血圧症 ②狭心症		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症 腎血管性高血圧症 ③狭心症、異型狭心症		①高血圧症		①高血圧症		①高血圧症 ②腎実質性高血圧症 ③狭心症	
用法	1日1回		①1日1~2回 ②③1日1回		1日1回朝食後		1日1回直食後		①②1日1回朝食後 ③1日2回	
用量	①2.5～10mg(6歳以上2.5mg) ②5mg		①20～40mg(40mg2回まで) ②20～40mg ③40mg(最高60mg)		8～16mg		5～10mg(20mgまで増量可) (重症10～20mg)		①②2～8mg(重症4～8mg) ③8mg	
半減期	35.1時間		-		19～23時間		5～8時間		約1時間	
特徴	・効果発現が緩徐 ・有効性が高く評価されている ・口腔内崩壊錠が発売されている ・相互作用が少ない ・妊娠中の全期間において有益性投与		・即効性の強力な降圧効果を示すが、副作用のためCR錠が望ましい ・妊娠中の全期間において有益性投与		・脈拍数を抑える ・併用禁忌あり		・尿蛋白減少作用が示唆されている		・反射性頻脈が起こりにくい ・尿蛋白抑制効果が示唆されている	

解説

有効性・安全性

・日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライ2019」では、アムロジピンは有用性が高く、最も使用頻度が高いとの記載がある
・特定のDHP系カルシウム拮抗薬を推奨する記載はない
・ニカルジピンの注射剤、アムロジピン、ニフェジピンが妊娠中の全期間において有益投与となっている以外は禁忌となっている

参考文献

・日本フォーミュラリ学会　ジヒドロピリジン(DHP)系カルシウム拮抗薬(高血圧症)フォーミュラリVer.3.1
・日本高血圧学会　高血圧症治療ガイドライン2019
・日本産婦人科　産婦人科診療ガイドライン産科編2020